

89 モーイ親方（ホ）

（薩摩の難題）

モーイ親方のお父さんが役所にお勤めの時に、鹿児島からですね、難問が言い付けられてきましてね、この琉球国に。その難問というのが、何日までに雄鳥の卵を持って来なさいと。それから、沖縄本島の真ん中にある恩納森ですね、ウンナムイ。その森を、その山を鹿児島に持って来なさいと。それから、灰で絢うた縄ですね、灰で絢うた縄を百尋絢うて持って来なさいと、言うて難問があつたもんですから、

「もうお父さんは、こりやもう大変なことした。灰で縄が絢えるわけがない。どうして百尋の縄を絢うて持つてゆくか。それから、恩納森というそりや相当の山だが、あの山をどうして崩して鹿児島まで運んでゆくか。それから雄鳥の卵、雄鳥が卵を産むわけがないはずだけれども、そういう注文が参りまして、雄鳥の卵もどこ探してもそりやあるはずがない。どうしたらいいか」と心配しておられるのを、このモーイ親方とい

うのがお父さんに、

「お父さん、この役目はね、お父さんじゃ務まらない。私が代表して、私が無事お務めを終えて帰りますから、私に責任を持たして下さい」と言うもんだから、お父さんも常日頃から、このモーイ親方というのはあほみたいな格好をしておるけれども、頭のいいのはよくわかつておりますから、

「それじゃあひとつお前、請け負うてくれ」というて、そのモーイ親方が、代理として鹿児島に派遣されました。

そうして、鹿児島に行つて、その報告の日が参りましたので、早速モーイ親方は、胸を張つてどうどうと会場に行つて、殿様に会いに行きました。そして、
「どうしてお前は、モーイ親方の子どものはずだが、お父さんはどうしたのか、どうしてお前が来たのか」と言うてお殿様からおっしゃりましたので、モーイ親方いわく、

「実は私のお父さんが急に産催いをしまして、お産の心地がしてとうとう鹿児島に参ることができませんでした」と言うたところが、お殿様は急に、

「お前、嘘を言うか。どうして男の人が子どもを産むことができるか」とおっしゃったところが、

「お殿様、それでは雄鳥の卵はどこからできますか。雄鳥が卵を産みますか」と言うたところが、

「ああ、こりゃ一問参った」と言うて、殿様が一問終えたわけですね。

今度はウンナムイ。

「ウンナムイは、実はウンナムイを引っ越して、那覇の港まで持って来てありますけれども、琉球国は小さい島国でありますので、こんな大きな山を運ぶ船がない。そうだから、この山を運ぶ船を一つ沖繩に派遣して下さい」と言うたところが、これも藩主は一問参りまして。山を運ぶ船というのは鹿児島にもありません。これも一問は終えたわけですね。

灰縄は、百尋縄で絢うてですね、それを火を付ける、火を付けたら自然に全部燃えてしもうて、そのまま、元の形のままに灰が残ります。それを持って行っておあげしたら、

「これも見事正解だ」と言うて、お誉めの言葉をもらってどうどうと琉球国に、大きな使命を果たして帰って

来たというお話でございます。

字照屋
上江洲由豊

